慶應義塾 医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話＝3353－1211（大代表）
信濃町駅前・各種診療

# 東日本大震災
# その後の関連病院の対応

## 社中一丸となり組織を超えた支援を

慶應義塾大学関連病院会会長
東京医療センター院長　松本　純夫（外52回）

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災はその大きさ、規模において日本が経験した最大の災害であった。犠牲者のご冥福を祈るばかりである。

私自身は全国国立病院院協議会役員の開会を打ち上がって宣言するところで、めまいを感じたと誤解した。正面の役員が両手で机につかまり、立ち上がるのが難しくなって直ちに帰宅した。自身は2時間後に病院へもどることができた。

破損してしまった廊下のケーブル架線（茨城県）

パイプが落下した看護学校講堂（水戸医療センター）

DMATが国立病院機構災害医療センター、その他から福島県、宮城県、岩手県へ飛び出して行く。機構内で関連病院として被災したのは茨城県の東、霞ヶ浦医療センターである。茨城東ではライフラインがとまり、呼吸器装着していた重心患者を霞ヶ浦に移送した。水戸、宇都宮、栃木病院ならびに茨城県の患者を受け入れて盛岡市であるが、福島原発損壊による被爆事故に備えて放射線技士・医師・看護師を水戸医療センターに関東ブロックおよび東京ブロックから計画的に派遣した。

自組織の対応に追われている中で、3月13日夜医学部長から関連病院の被害状況はどうだろう